

自らの地域資源を育てる 風土を作ろう

全国エコツーリズム大会 in 洞爺湖開く

地域の資源を生かした観光を
めざすエコツーリズムの全
国大会「全国エコツーリズム大
会 in 洞爺湖」（主催同実行委員
会「委員長菊谷秀吉伊達市長」）
が、10月3日～5日の3日間洞
爺湖文化センターを主会場にし
て道内で初めて開催されました。

サミット後の地域観光のあり
方を考えようと洞爺湖周辺の4
市町村や日本エコツーリズム協
会が実行委員会を作り主催した
もので、全国からエコツーリス
ムの専門家、学者、自治体関係
者、地域住民が参加して、火山
や歴史、文化を生かしたこれか
らの観光のあり方を探りました。

初日は、石森秀三北海道大学
観光学高等研究センター教授の
基調講演「次世代が拓く地域の
未来」と敷田麻美氏（北海道大
学教授）をコーディネーターに、
来栖正光氏（ホテルグランドト
ーヤ専務取締役）、若狭孝司氏
（ワカサリゾート(株)常務取締役）、
三松三郎氏（三松正夫記念館館

長）、岡田弘氏（北海道大学名
誉教授）、小川裕司氏（(株)洞爺
ガイドセンター代表取締役）の
5人による「洞爺湖の資源価値
を活かす観光とは何か」をテー
マにした基調シンポジウムが
行われました。

2日目は、昭和新山と有珠山
コース「洞爺湖展望と果樹園コ
ース」、財田・田園と湖畔を巡るコ
ース「伊達・開拓の歴史と文化を
たどるコース」「豊浦・噴火湾海の
恵のコース」の五つのコースに
分かれて、大会参加者が、ツア
ー体験。最後に、全体で報告会
を行い、具体的にツアーの評価
を述べ合いました。

最終日は、2日間の内容をふ
まえながら、「火山は資源。ど
う活かすか」「持続可能な資源
の保存と活用を考える」「北海
道式エコツーリズムの現状」「エ
コツーリズムとマーケティング
の課題」「先住民とエコツア
ー」「温泉とエコツアー」の六
つの分科会を行い、専門家や地

元関係者をパネリストに、今後
の観光のあり方などを具体的な
体験や活動を通じて、参加者や
地域住民と活発な議論を繰り広
げました。

最後に、各分科会の報告を受
けエコツーリズム協会の高梨理
事が「地域固有の資源を継続可
能な観光として活用し、それを
地域の振興に向けていかなけれ
ばならない」と発言、洞爺湖に
関しても「国内が難しいから海
外から呼ばばいいじゃないかと

いう考えではなく、洞爺湖なら
ではのツーリズムを生み出して
いかなければだめだ。ホテルの
囲い込み観光ではなく地域全体
の賑わいを取り戻すという発想
が必要だ」と苦言を呈しました。

最後に、「地域住民が自分達
の良さを、観光資源を、見直す
事が大事で、エコツーリズムを
培う風土を作ろう」と総括して
3日間の大会を終了しました。



洞爺湖を眼下に季節はずれの色あざやかなたんぼ畑を下りる
（財田・田園と湖畔を巡るコース）